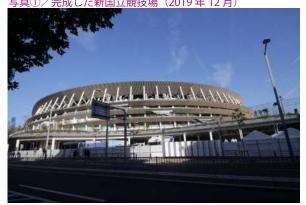
写真①/完成した新国立競技場(2019年12月)





2020 年正月 SPECIAL プチ特集

建設関連業種が総力を傾けたビッグプロジェクト 新国立競技場が出来るまでの定点観測記録・抄

~ 2020 東京オリパラの主役がいよいよ降臨~

(取材/本紙編集部)

☆これからどう成長させていくかが新国立の課題

今年の元旦――。ついに「完成」なった新国立競技 場(2020 東京オリパラではナショナルスタジアムの 名称が使用されるらしい) において、旧国立競技場で は元旦恒例だった「天皇杯サッカー」決勝が6年ぶり に、今度は新国立競技場を舞台に開催された。

昨年 11 月 30 日には、建設に携わった大成建設・ 梓設計・隈研吾建築都市設計事務所共同企業体から、 発注元の独立行政法人日本スポー振興センターへの 「引き渡し式」が行われた。また 12 月 21 日には開業 となり、年内にいくつかのお披露目イベントなどが行 われたことも、ニュースで報じられた。

そして迎えた今年元旦、スポーツ施設としての新国 立競技場が初めて実施したスポーツ競技が「天皇杯 サッカー」決勝なのだ。ちなみに全国のプロアマ・チー ムが多数参加して、日本一を決める「天皇杯サッカー」 は今年が 99 回目。来年は記念すべき 100 回目の大 会が行われ、決勝も恐らくは「恒例」を引き継ぎ、新 国立競技場で開催されるはずだ。しかし、実際に新国 立競技場を体感したサッカー関係者や一部の観客から

は、今のところ評判があまり良くないらしい。

観客からは場内の導線が分かりにくい、席が狭いな どの苦情が出ている。またサッカー関係者からは、全 国各地にサッカー専用の優れたスタジアムが出来てい ることなどもあり、それらとの比較で「何かと使い勝 手が悪い」という声が少なからず出ている。

さらに構造上の問題として、たとえば「杜のスタジ アム」のコンセプト通りに 47 都道府県から調達した 木材を各所に配した自慢の意匠が、逆に近隣の代々木



写真③/車両出入口の向こうはまだ何もない(2017 年 2 月)